金木だより

発行所　青森県金木町役場
編集企画室
印刷所　東奥日報社事業局

町税今後の納期

固定資産税3期9月30日まで
保険税3期　9月30日まで
町県民税3期　10月31日まで
固定資産税4期11月30日まで
町県民税4期　12月28日まで
保険税4期　12月28日まで

なお、税務課では、家屋の評価替えの調査をしていますので、お立ち寄りの際はご協力下さい。

未登録自転車の一掃運動期間

9月11日～30日

自転車の盗難防止と、盗まれた自転車が早く見つかるという〝車籍登録制度〟ができてからことしで満六年。

自転車の未登録の方は、一日も早く登録してください。（金木警察署）

三カ年計画

森林軌道の改修進む

金木営林署

大東ケ丘 大倉岳 間を自動車道に

期待できる観光資源開発

金木営林署では、林業経営の近代化をはかるため、森林軌道を自動車道路に切り替える計画で、当町関係では、まず、大東ケ丘部落から大倉岳までの間の道路を建設することになり、本年度は、大東ケ丘部落入口溜池付近を起点とし、現在、延長三㌔の工事を実施中ですが、将来は、大倉岳への観光道路ともなるので、町民からも大きな期待をかけられています。

国では、国有林経営の合理化をはかるため、森林軌道をとりはずして、全面的に自動車道路に切り替える方針をとっておりますが、金木営林署でも、この方針に沿って、すでに飯詰地区は一部完成をみております。

【写真＝順調にすすんでいる自車動林道工事の現場】

金木地区は、本年度からとりかかるのですが、この計画では大東ケ丘部落―高長根―折戸沢―大倉湯の沢までの延長約十㌔の路線のほか、ナメタラ沢および敷場沢にも自動車林道を通すことになっており、いずれも幅四㍍のものです。

その手はじめとして、本年度は工事費約一千二百万円で、大東ケ丘部落入口にある溜池付近から部落内の道路を拡張し、折戸沢までの約三㌔に幅四㍍の道路をつくることになっており、すでに工事にとりかかっています。本年度の工事は、路体と暗渠の基礎的な工事で、砂利敷きは三十九年度に行なう予定になっています。

また、三十九年度には、森林軌道をとりはずして、折戸沢から湯の沢まで、約三㌔の道路開発を行なって、四十年度に完成することになっています。

この林道工事が完成すると、丸太がトラックで直接金木貯木場へ運搬できるばかりでなく、産業道路として地元にも多大の恩恵を与え、また、岩木山や日本海の遠望がきき、津軽平野や陸奥湾を眼下に見おろすことのできる大倉連峰の観光資源開発にも大きな貢献をするものと、いまから完成が待たれています。

定例町議会

予算、最高額に達す

相の山 藤枝溜池 災害工事は町営で

第二十八回定例町議会は、去る八月二十六日に招集、会期は二十九日までの四日間の予定で開会されましたが、議案審議が意外にはかどり一日繰り上げとなり、本年度追加更正予算をはじめ十四件が原案どおり可決されましたので、以下主な議案についてのあらましは次のとおりです。

▽専決処分報告関係

①町道の修理維持のため必要なダンプ・トラック一台の購入費九五万円の不足分四十五万円を追加した。

②昨年の秋、蒔田、藤枝、川倉地区がひょう害をうけたのであるが、金木農協が被害組合員に総額九十一万円を融資したその額の百分の五十以内で損失補償する。

▽本年度追加更正予算

教育および産業経済費に重点をおき、約一千七百五十万円を追加更正した。予算総額はこれで一億五千三百余万円となり、現在までの最高の予算規模となった。

主なものは次のとおり。

・ポンプ自動車のエンジン取り替え＝三十三万円・道路の維持修繕費＝六十七万円・金木小学校の給食施設をはじめ各小、中学校の屋根修理や教材用具の購入費等約一百七十五万円・喜良市保育所の付帯工事費五十万円・心配ごと相談所負担金七万円・農業委員会費は農地交換分合など約八十五万円・小田川ダム促進費三十万円、動力噴霧機購入補助七十一万円（これで購入希望の防除班全部に助成することになる）。藤枝溜池分水口の災害復旧工事費など約八十万円、相の山堰頭首工の復旧工事費五百七十余万円など産業経済費約八百四十四万五千余円の追加

・その他金木高等学校組合の解散に伴う清算や債務継承費、十月一日から七割給付の国保の繰り出し金、十三千拓協議会はじめ関係団体に対する負担金など追加した。

▽その他の案件

①特別会計国民健康保険の追加更正予算の件

②消防団条例の一部改正の件（神原分団を新設する）

③町税条例の一部改正

④町営土地改良事業施行の件（藤枝溜池の分水口および相の山頭首工の工事を町営で施行する）

⑤災害復旧工事に関する賦課徴収の件（④の町営工事施行に伴なう賦課金の徴収）

⑥喜良市診療所設置の件（九月一日から同診療所を再開する）

⑦国民健康保険条例の一部改正の件（⑥と関連）

⑧財産取得に関する件（喜良市小学校長住宅用地および大東ケ丘部落から高長根道の終点までの林道約三千㍍を、金木営林署が自動車道路に改良し、完成後、町道とするのであるが、その用地内にある民有地の買収）

⑨金木高等学校組合の解散と債務継承に関する件

⑩寄付採納の件（青野開拓の老朽住宅改築費八戸分四十六万四千円の寄付）

⑪保育所設置条例の一部改正の件（喜良市に新設する金木町第四保育所を加えた）

人口動態

（昭和38年8月31日現在 推計人口月報による）

区分	金木	嘉瀬	喜良市	計
人口	8,570人	4,534人	3,780人	16,884人
世帯	1,528	815	590	2,933
出生	21	11	10	42
死亡	4	2	1	7
転入	21	5	5	31
転出	40	11	11	62
出生	19	6	6	31
婚	0	1	1	2

男　8,446人
女　8,438人
計　16,884人

9月の解説と行事

ながつき

陰暦の九月のことを『長月（ながつき）』という。この解釈については、夜の長い月、長くなる月、夜長月などというのが定説のようです。

さて、九月は秋のはじめの月ですが、陽暦の上では八月八日が立秋となっています。しかし、このころは暑さがきびしく、とても秋とは思われないのが実情です。

一百十日（九月一日）、二百二十日などと台風のシーズンでもありますが、秋分の日（九月二十四日）のころには、月はじめとは全く違った秋らしいふぜいが感じられるようになります。

〈秋の七草〉

はぎ、おばな、くず、なでしこ、おみなえし、ふじばかま、あさがお。

主要行事

1日（金）　二百十日
　　防災の日、関東大震災記念日
　　性病予防週間（7日まで）
　　麻薬禍撲滅運動月間、全国労働衛生週間準備月間
10日（火）　下水道促進デー
15日（日）　としよりの日
　　働く婦人の福祉運動（24日まで）
　　国体夏季大会（18日まで山口県下）
20日（金）　航空日、動物愛護週間（26日まで）
21日（土）　彼岸（ひがん）
24日（火）　秋分の日、結核予防週間（30日まで）

低利で長期的な資金

農林漁業経営改善資金

農家のみなさんにとって、農業経営に必要な資金が、もっと低利で長期間借り入れられるようになれば、まだまだ経営改善ができるし、いままで高利の借金で苦しみ農地を手放さなくてもよいのに、などと思っている方があると思います。

今年度から、農家のみなさんの希望をとり入れた〝農林漁業経営改善資金融通制度〟がつくられました。

農林漁業者に資金を貸してくれる機関に〝農林漁業金融公庫〟というのがありますが、この公庫で出している資金の数は、四十四種類にもぼります。

このたびつくられた〝農林漁業経営改善資金制度〟（以下〝改善資金〟という）は、農業経営の規模の拡大、農業生産の選択的拡大および林業、漁業経営の改善を促進するため、特に必要な資金を、長期かつ低利という好条件で融資することになったのですが、この新しい制度の制定に伴って、いままでの自作農維持創設資金制度は一部改正され、創設（農地取得関係）資金は改善資金の方へ移り、維持資金だけが残りました。

〝改善資金〟は九つの種目にわかれており、農協（創設資金は従来どおり農業委員会）を経由して申し込むことになり、いずれも知事の認定が必要です。受託の金融機関は、農林中央金庫青森支所、県信用農協連、青森銀行、青和銀行となっていますが、この資金の種類、利率などは別表のとおりです。

なお、この資金をはじめ、各種の農林漁業資金について、くわしく知りたい方は役場産業課または農業委員会（農協）などに相談してください。

自作農維持資金の農地取得資金の申し込み受け付け中

昭和三十八年度より農林漁業経営改善資金融通制度が創設され、それに伴って自作農維持創設資金の一部が改善資金に移り、自作農資金のうち維持資金だけがそのまま残り、創設資金は農地取得資金となって農業経営改善資金に移りました。

右のいずれも農業委員会を経由して県知事の適格認定を受けなければなりません。

農業委員会では維持資金の第三回目を九月十五日まで、取得資金は、随時、受け付けることになっております。

借り入れ希望者は早めに農業委員会に申し込んでください。

（別表）農林漁業経営構造改善資金融通制度一覧

資金の種類	貸付の相手方	利率（年）	償還期間	据置期間	貸付最高限度額
1、農業構造改善事業推進資金	農業を営む者	非補助3分5厘 補助6分5厘	17年以内（果樹の植栽15年以内）	3年以内（同左10年）	個人 250万円 法人 1,000万円
2、果樹園経営改善資金	同上	6分（据置期間中5分5厘）	15年以内	10年以内	同上（1戸1法人は250万円）
3、畜産経営拡大資金	同上	同上	12年以内	3年以内	セット貸付 個人 酪農 250万円 個人 肉用牛 200万円 法人 酪農 1,000万円 法人 肉用牛 800万円
4、農地取得資金	同上	構造改善 4分 一般 4分5厘	22年以内	3年以内	個人 80万円 法人 300万円
5、未墾地取得資金	農業を営む者農事組合法人農協	同上	22年以内	3年以内	同上
6、林業（森林取得）経営改善資金（森林管理）	林業を営む者	構造改善4分 一般4分5厘 5分	25年以内 20年以内	一時償還	80万円 同上

註：漁業関係は省略しました。

私たちの広場

三戸郡南部町

社教施設を見て

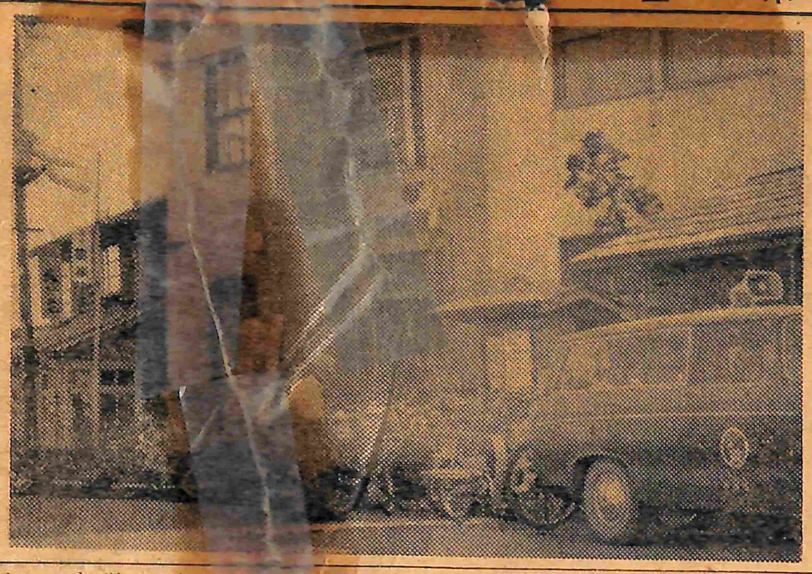
紙上座談会

◇…先号の町報〝金木だより〟のこの欄には、社教の先進地『南部町』の視察記を座談会形式として、南部町のあらましや、生活改善、そして社会教育活動の一部について載せましたが、今回は、南部町の社教活動がどのように、なされているかについて話し合っていただくとともに、県下で最もスムースに運ばれたという〝統合中学校〟の問題にもふれてみましょう。

信頼されている青年（南部町）

社教活動の体制強化を（金木町）

（下）



【写真＝デラックスな南部町の中央公民館】

司会　先回は、社教の町〝南部町〟をみての印象についていろいろとお話をうかがいましたが、南部町は『活気あふれた明るい町で中央公民館を軸とし、各部落にある分館を中心に十二年も前から、自力で、しかも民主的な社教活動をすすめて効果をあげてきた町、そして、愛町運動を土台とし、それを、これまでにもあげてきた根本的なものは〝人〟を得ることである』という結論のようでしたが、今回はさらに具体的な面についてお願いしたいと思います。

できれば、当町の場合と比較してのお話し合いということにしていただければたいへん結構だと思います。ではGさんから……。

G　一般に、社会教育の重要性を認めながら、なかなかできないのが現状であると思います。特に市町村の理事者にしてみれば、経済効果が目に見えないものには出ししぶる傾向があると思います。その点、金木はようやくめざめてきたという感じです。

H　それにしても南部町の大向と玉掛部落の公民館はすばらしいですね。百四十坪の二階建で、映写室のあるホール、調理室、そして二階の広間にはエレベーターで料理が運べるなどの設備があるし…。それと部落民の熱の入れ方はチョッとまねのできないことだと思います。公民館の建築費を部落民が半数負担をしていると聞きこれまたオドロキです。

それと『青年議会』を青年団が中心になって組織し、町議会と同じような仕組みで運営されており将来の南部町の発展策を討議し、青写真をつくっていることもオドロキでした。そして、町民はこれをまた温かい気持ちで見守っているのには敬服いたしました。ことしは御殿場の国立の〝青年の家〟で青年議員が研修することになっているときいて、三たびビックリです。

G　建て物もデラックスだが、よく利用もされていますね。使用手続きも簡単だし、鍵は部落長がもっていて、いつでも借りられるという気安さもあるでしょうが、こういう気安さがまた近代的民主的な考え方に成長したのだと思い

町長決断で円満解決

条件が似ている中学の統合

司会（いてに、金木も〝統合中学校〟のことがありますので、南部町の場合のお話しでも…。

A　南部町も、嘉瀬、喜良市中学校の場合とよく似ているようですが…。

B　いままでのいきさつからみれば、似ている点はありますが、金木の場合は、これからが問題なのです。南部町では、旧平良崎と向村が対立してゆずらなかったが町長はじめ議会側が、教育長の構想を全面的に支持し、それを部落民に納得させたのだそうです。教育長の構想は①適正な規模の学校②適正な教員数③適正な施設、設備の学校④高台で、広く、景観のよい校地、と、条件を備えたものだそうで、この点からみれば、平良崎城跡がもっともよいということになり、この結論によって、理事者側は部落感情にとらわれることなく説得に全力をそそいだということです。

H　要するに南部の町長さんが決断し、それを実現させたということでしょう。

B　そうです。

F　そういう点、金木の場合も[illegible]

司会　[illegible]

良識が成果をあげる

住民の意志尊重し幸福を

G　それもそうですが、それに町全体が青年を信頼し、そして青年たちも、また町民も良識をもって行動していると思いますが…青年議会がそのいい例ではないですか。

H　そうです。そして青年たちの潔癖さとたくましいエネルギーも…。そういう点、金木の青年たちにいま少し奮起を促がしたいですね…。それと同時に私たちも、もっと反省する必要があるし、努力しなければならないと思いますが。

司会　ともかく、社会教育の先進地である南部町を視察してきて学ぶべきものがあまりにも多すぎてとまどうぐらいですが、いままでの皆さんのお話から一応まとめてみれば次のようになると思います…。

①社会教育をおしすすめるための場所と組織があり、基礎資料がまとまっており、総合計画が立てられている。

②地域社会がよくその使命や活動を理解し、それを自分たちのものとして協力している。

③真の意味での生産と教育とのつながりをよく理解している。

④理事者側は地域住民の幸福を願う立ち場に立って、その意思を尊重し、十分それを生かすための施策をたてている。

以上のことが南部町の『社会教育の町』としての実をあげてきた要因となっているとみてよいのではないでしょうか。

【写真＝近代的な南部町中学校】

計画的な活動

農協なども参加

H　計画には総合計画と年次計画があって、社教委員と公民館運審委が中心になってたてるのですが　計画樹立にあたっては、社会教育の対象団体や職域単位が自主的な立ち場から提出されたものを基礎資料としており、したがって『計画即実施』という体制が当初からできているように感じました。

しかも、部落単位の公民館がこれをまとめているので、部落や各種団体、そして職域側とあらゆる面にわたって計画されているので実状に即した社会教育がすすめられることになるのです。

〝成人教育〟のうち生産教育にしても、農協などが積極的に参加し、生産、流通の協業、共同化までの話し合いや青年学級、婦人学級も部落によってそれぞれ特色ある教育がなされるというぐあいです。それがまた、中央公民館―分館―中央公民館というふうにタテヨコの連絡調整がうまくいっているようです。

F　それでよいと思います。ただ、私たちの町の場合、社教活動をすすめていく人が、社教主事一人では手不足だと思いますが……。

司会　そのことについては、今後議会や町長さんにも、みんなでお願いすることにしましょう。

人事異動

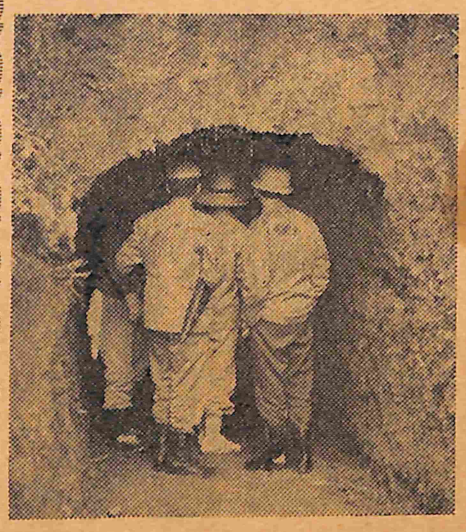
（九月六日付、カッコ内旧任）

▽農業委員会　事務局長　小野四郎（保険課長）▽保険課長　心得　白川重一（保険課係長）▽農業委員会事務局　書記　吉田満作（厚生課）▽厚生課　主査　千葉子（総務課）▽総務課　高橋陽（厚生課）

南部町について

三戸郡南部町は、人口約8千人で昭和30年に向村と平良崎村の2カ村が合併した町で、国道沿い岩手県境に近い東北本線三戸および諏訪平の2つの駅があり、馬淵川の上流遠辺川が流れており、近くには八戸工業地帯がひかえているので、活気のある町です。主なる産業は農業ですが耕作面積が784㌶、そのうち水田約190㌶、果樹園および普通畑が約300㌶ずつの約600㌶と果樹畑作中心の町であるが、民有林も約730㌶と多い。そのうち〝りんご〟が244㌶と水田よりも多いのが特徴です。

写真ニュース



原住民の横穴？

このへん一帯は、その昔、原住民らしいものの住んでいたことは、みなさまご存じのとおり。その民族の住んだヨコ穴らしいものが、小田川上流にあるという情報があったので、ソレッとばかりに行って見たら……。

ヨコ穴はあることは間違いありませんでしたが、その穴の付近には、真新しい土がいっぱいありました。出かけた一同『なあんだ……』とコボすこと。

だが、念のため、と思って、すぐ近くにある営林署の事業所にきいてみたところ『あれは、このへんにダムをつくるとかで農林省のお役人さんがきて、つい20日ばかり前に掘ったものですヨ』とのこと。ダム堤防個所の土質調査の跡だったのです。

お山参詣かな？

去る4日、町のなかを『サーイギ、サイギ』という唱和の声が聞えてきました。

『お山参詣にはまだ早いのに』と思いながら表に飛び出してみたところ、白、赤、紺など、色とりどりの御幣（ごへい）をもった白装束に身をかためた女性の一団……。

ところが〝そのあとには〝白浪五人男〟〝赤穂四十七士〟などの仮装の行列が延々と続いていたのにビックリしました。

もうおわかりと存じますが、これは、嘉瀬部落あげての〝夏まつり〟の行事の一つ。このまま岩木山へいかがですか？

民健　被保険者証
厚保険　の書き替え
○書き替え期間　九月一日から世帯主は七月一日から世帯主は七月一日から世帯主は七